

平成20年7月21日発行

コンサ旭川準々決勝でコンサ札幌に惜敗！ 第14回北海道クラブユースサッカー選手権 (U-15) 大会

平成20年度第14回北海道クラブユースサッカー選手権大会は、7月5日に夕張平和運動公園で開幕。7月13日にコンサドーレ札幌の優勝で幕を閉じました。コンサドーレ旭川は優勝したコンサ札幌と準々決勝で対戦。前半は1点リードで折り返しましたが、後半力尽き惜しくも2対1で敗れました。

7月6日(日) 2回戦 夕張平和運動公園
コンサ旭川 5 - 1 (1 - 0) フロントアトルナーレFC
得点者 山下, 高木, 阿羅, 玉田, 吉本
コンサ旭川 GK 今岡 DF 河原, 成田 (石井), 伊藤, 田中 (澤田)
MF 玉田 (細岡), 中澤, 高木 (小手川), 阿羅, 武井 (吉本) FW 山下
2分, 相手のオフサイドで得たFKをGK今岡が前線へフィード。セカンドボールを処理したMF武井が相手DF間に縦パスを出すと裏へ走りこんだFW山下へ渡る。GKと1対1となった山下は落ち着いてGKの動きを見てゴール右サイドヘインサイドキックで丁寧な流し込み先制点。今季初の立ち上がりの得点で波に乗るかと思いきや、その後は雑な攻撃で勢いがなくなる。やっと13分に先制点と同じような場面を武井, 山下のホットラインで演出するが、今度は山下のシュートはGKのファインセーブにあいノーゴール。その後はしばらくミスパスが目立ち、自らチャンスを逃してしまう。結局前半は立ち上がりの1点のみ。次の1点が勝負のポイントとなりそうな試合展開となる。
後半はすぐにチャンスの訪れる。36分, DF伊藤の縦パスに右MF阿羅が長い距離を走り裏を取る。ドリブルシュートを放つが、GKに阻まれ突き放すチャンスを逃す。40分には再び阿羅がCKを頭で捉えるが、これもGKに阻止される。そして、42分右サイドへのサイドチェンジ後阿羅から山下とボールが渡りセンタリング。左ポスト前へ飛び込んだMF高木がダイレクトボレーで待望の追加点。ここから一方的な展開となる。45分には山下のCKを阿羅が再び頭で合わせ、一度はポストに嫌われるが、リバウンドボールを蹴り込み3点目。2分後、山下からのロングフィードを裏に抜けた阿羅が受けセンタリング。逆サイドへ待っていたMF玉田が決めて4対0。しかし、守備陣が気を抜いたのか、48分に中央を簡単に崩され、フリーでペナルティエリアへ侵入してきた相手選手を、DF成田が後方からのタックルで倒してしまいPK献上。難なく決められ4 - 1となる。しかし69分、途中交代で右サイドに入ったMF吉本が決めるとなる5点目を決めて試合終了の笛が鳴った。

7月11日(金) 準々決勝 夕張平和運動公園
コンサドーレ旭川 1 - 2 (1 - 0) コンサドーレ札幌
得点者 武井 (旭)
コンサ旭川 GK 今岡 DF 河原, 成田, 伊藤, 石井 MF 玉田, 中澤, 高木 (吉本), 阿羅, 武井 (澤田) FW 山下

昨夜からの雨で水溜りこそないが、ピッチはスリッピーな状態。立ち上がりは静かな様相。両チームとも最初の10分はチャンスらしいチャンスを作れない。しかし、旭川左サイドで1対1の勝負で抜かれ、後方から相手FWにショルダーチャージをするとPKをとられる。しかし、このPKをGK今岡の読みがズバリと当たり、見事なセービングで阻止。このプレーで旭川の選手が活気付く。そして、13分裏を狙ったパスが跳ね返されるも、右サイドバックに入った石井がDFの背後へ浮き球のパスを出す。タイミングよく走りこんだMF武井が右足のインサイドで合わせると、前方へ動き出したGKの頭越しにゴールイン。待望の先制点をあげる。15分にもDF伊藤のロングフィードをFW山下が頭で走りこんできた武井にパスを出すと、見事に裏を取りドリブルシュート。しかし、惜しくもGKに阻まれる。その後17分, 21分, 25分, 33分に札幌がシュートチャンスを掴み、徐々にペースを掴み始めるが、旭川DF成田を中心に集中して守り、全くフリーでは打たせない。GK今岡も好セーブ連発でゴールを死守する。前半は1対0のリードのまま終わる。
後半は、最初の10分間は何とか札幌の攻撃に対応していたMF陣だが、次第に運動量が落ち、札幌のボールポゼッションの時間が多くなる。マークの受け渡しなどDF面での連携にほころびが生じ出す。52分にサイドから崩され失点。58分にも混戦から連続シュートを打たれ、今岡が2度弾き返すが、3本目のシュートはネットを揺らす。逆転された後も札幌は攻撃の手を緩めない。旭川も山下中心に反撃を試みる。終盤入った吉本のクロスやCKからチャンスをうかがう。阿羅がゴール前でフリーで放ったシュートは足にミートせずノーゴール。最後の力を振り絞るもタイムアップ。1対2の惜敗となった。

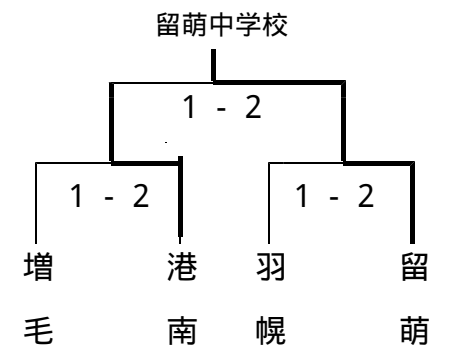
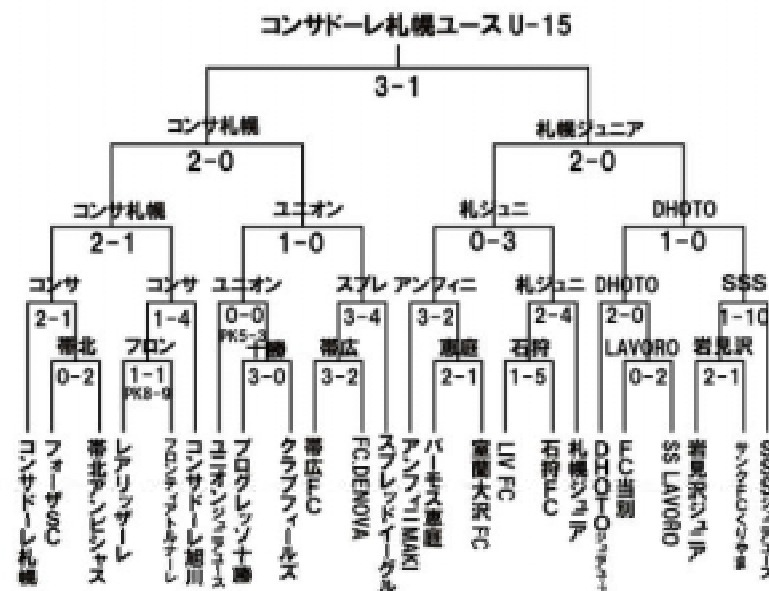
留萌中が2年連続の全道大会出場！ 留萌地方中体連サッカー大会

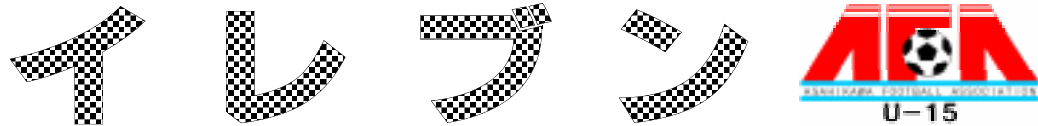
平成20年度留萌地方中体連サッカー大会は、7月1日に留萌中学校グラウンドで行われました。今年度は4チーム拮抗したチーム力で、注目されましたが留萌中学校が港南中学校を決勝で破り、2年連続8度目の全道大会出場を決めました。

- 1回戦 港南中 2 - 1 (1 - 0) 増毛中
得点者 町田(26分), 植松正(49分) (港) 川井(47分) (増)
留萌中 2 - 1 (1 - 1) 羽幌中
得点者 大島慎(15分), 中土井(36分) (留) 工藤(22分) (羽)
3位決定戦 増毛中 4 - 1 (2 - 0) 羽幌中
得点者 太田(8分), 川井(25分, 41分, 59分) (増) 古川(44分) (羽)
決勝 留萌中 2 - 0 (1 - 0) 港南中
得点者 大島拓(3分), 藤井, (57分) (留)

中体連の決勝では初顔合わせとなった両チームは、初戦で増毛を倒して勢いになる港南中と、苦戦しながらも羽幌中を倒した留萌中の顔合わせとなった。序盤は留萌ペースで試合は運ばれ、ボールを支配する。3分CKを得た留萌は、クリアボールを右サイドの佐藤がダイレクトでセンタリング。大島拓がフリーでゴール左から頭で合わせて先制する。その後も留萌は渡瀬, 中土井に加賀がよく絡んで、ボールを左右に散らしながらサイド攻撃wp仕掛ける。港南もMF土田を中心に港南の攻撃をよくしので、植松正, 植松大にボールを運び、カウンターから攻撃する。しかし、決定的なチャンスは留萌GK石川の好守に阻まれる。前半は留萌の攻撃をよくしので港南守備陣の健闘が光った。

後半に入り留萌は、中土井の左サイド突破から何度か決定的なシュートチャンスを作るが、港南GK五十嵐のファインセーブもあり追加点をあげることができない。港南もFKからチャンスを作るが、大島慎を中心とした留萌守備陣を崩すことができない。足が止まり始めた港南に対して留萌は、57分左CKから中土井がタイミング良く走り込んだ藤井に合わせて駄目押し2点目を奪う。ボールに対する執着心が港南を上回り、試合を終始リードした留萌が2年連続の全道大会進出を決めた。





平成20年7月21日発行

旭川女子アチーボ惜しくもPKで敗れ全道3位！ 平成20年度北海道女子ユース(U-15)

第16回北海道女子ユース(U-15)サッカー選手権大会が7月19日から21日にかけて、旭川市カムイの杜運動公園で行われました。旭川からは旭川女子アチーボが出場。準々決勝ではA S Cadooma日胆ユースを江良の2得点で破り準決勝に進出。優勝候補のクラブフィールズ・リンダとの対戦でも、工藤が直接FKを決めるなど、互角の勝負を演じましたが惜しくもPK戦で敗れました。しかし、旭川の女子チームが全道のトップレベルにあることを証明した戦いでもありました。

準決勝

旭川アチーボ1-1(0-1)クラブフィールズ・リンダ

得点者 工藤(37分)(ア)(39)(17分)(リ)
アチーボ GK坂本葵 DF坂本結, 中瀬, 大家, 矢倉 MF藤村, 工藤, 小西, 浅見 F W江良, 関崎 交代/F P柳川, 笠原, 有原

開始2分アチーボは相手GKのキックミスがFW江良のところに来るが、相手の速いプレッシャーにあってシュートができない。さらに、4分にはDF矢倉, MF小西とつないだボールをMF藤村が落とし、MF工藤が江良にスルーパス。江良はGKをかわしてシュート、こぼれたボールを浅見がシュートするが、ゴールカバーに入ったDFにクリアされる。1分後にも工藤が関崎にスルーパスを送るなど、序盤はアチーボペースで試合は進む。守備面でも坂本結と中瀬が相手の攻撃陣をストップ。矢倉のロングフィードや藤村のスルーパスから何度も相手の背後にボールを送り、攻撃の糸口をさぐる。しかし、17分相手(39)に意表をつくロングシュートを決められ先制を許す。序盤こそペースを握っていたアチーボだが、このゴール以降徐々にリンダの攻勢に押され出す。しかし、GK坂本葵を中心に何とかしのぐ。28分には相手MFにドリブルで突破を許し、絶体絶命のピンチを招くが、坂本葵が的確なポジショニングで相手のシュートをストップし、1対0で折り返す。



後半は再びアチーボの中盤がボールを拾い始め、攻め手が見え始める。37分ゴールまで30mの距離のFKをアチーボは工藤が直接シュート。強烈なシュートはゴールバーに当たってゴールインし同点に追いつく。同点にして勢いにのったアチーボは藤村が右サイドに進出、右DFの大家との連携から攻撃を組み立て出す。途中出場の柳川もいいクロスをあげるなど、右サイドが活性化される。40分カウンターからピンチを招くが、またしても坂本葵が反応、中瀬がクリアして事なきをえる。藤村、工藤が中盤を支配しているアチーボは完全にイニシアチブを握る。50分には交代出場の有原が相手ボールを奪いセンタリング。53分には藤村からの縦のフィードが出、両方ともFW笠原がよくからむがゴールはならない。右サイドでは相変わらず大家が効果的なプレーでリズムを作り出し、有原とともに何度もクロスを送る。55分危ない場面があったが、矢倉が1対1をストップ。両チーム、得点をあげられずに試合は終了PK戦に突入する。PK戦では坂本葵が相手の一人目を見事

なダイブでストップする。しかし、惜しくも3対2で敗れ、第3位となった。しかし、旭川の女子U-15年代が年々力をつけ、全道でもトップクラスの実力となったことを証明した試合であった。

準々決勝

旭川アチーボ2-0(1-0)A S Cadooma日胆ユース

得点者 江良(19分, 44分)(旭)
アチーボ GK坂本葵 DF坂本結, 中瀬, 大家, 矢倉 MF藤村, 工藤, 小西, 浅見 F W江良, 菅井 交代/F P関崎, 三浦

日胆は序盤(10)が中盤を作り、(7)に合わせる展開で攻勢に出るが、アチーボも次第に盛り返すようになり、一進一退の攻防となる。藤村、工藤を中心に中盤でボールをよく拾い、FW江良の縦への突破から攻撃の糸口を探る。DFラインではCB坂本結が相手の攻撃の芽を摘み取る。11分にはアチーボは、DFラインから出たボールを江良が相手DFと競り合いながらゴールに迫るなど得点の匂いを感じる攻めが増え始める。16分にはMF藤村が中央をドリブルで割って入り、MF浅見に絶妙のスルーパス。浅見が折り返したボールに江良が飛び込むが惜しくもシュートには至らず。しかし、日胆も(7)のテクニックとスピードを生かした攻撃でアチーボゴールに迫る。17分の相手のシュートチャンスはGK坂本葵が勇気ある飛び出しで防ぎ、18分のシュートにも坂本葵は好セーブを見せる。19分アチーボは工藤がDFラインのギャップをついてスルーパス。ラインを抜け出した江良はGKの動きをよく見て流し込み先制点をあげる。この1点で勢いにのったアチーボはDFラインも安定しだし、中瀬、坂本結のCBが相手の攻撃をよく抑える。また、藤村、工藤がスルーパスを前線へ送るが、これは日胆のオフサイドトラップにひっかかってしまう。26分アチーボは中瀬のパスからMF小西が、27分には工藤が相手のパスをカットしてシュートに至るが追加点はあげられない。



後半は開始早々から大家、小西の右サイドからリズムをつかみだす。藤村のドリブルからのスルーパスでチャンスをうかがう。37分には藤村のCKから浅見が狙うが惜しくもGKにはじかれる。42分には浅見が相手のボールをカット。相手DF二人をかわして縦に突進しシュートを放つがボールはわずかに右にそれる。アチーボは運動量で勝り、何度も得点機を迎え出す。43分には藤村が右サイドでタメを作り小西がセンタリング、江良がからんで最後は工藤がシュートを放つがGKの正面をつく。しかし、これらの攻撃がついに44分身を結ぶ。途中出場のFW関崎が相手のボールを奪って、DFとGKの間にクロスを入れると、走り込んだ江良がGKと1対1になりゴール左隅に流し込んで追加点をあげた。終盤も大家が好シュートを放つなど攻勢のアチーボはロスタイムにPK失敗はあったものの、日胆を圧倒。2年連続で準決勝に進んだ。

